

2018年「會津八一の歌を映す」

第12回 秋艸道人賞・写真コンテスト

■ 公募規定 (一部変更・追加しました⇒2の共催、4(応募条件)の③、⑩、13(返却))。以下1~17の規定に同意を条件とします。

1. 目的

本賞は東洋美術史家、歌人、書家であった會津八一の短歌のイメージを写真で表すことによって八一の業績を理解してもらい、八一に親しみを持ってもらう活動の一環です。美術や文学をテーマにした写真の普及を奨励し、併せて會津八一の業績を今日的に再生させることが目的です。最高賞の名称を會津八一の号にちなみ「秋艸道人賞」とします。

2. 主催、共催、協賛、協力、後援

主催 公益財団法人會津八一記念館
共催 新潟市、胎内市、新潟日報社、BSN新潟放送、八栗寺(香川県高松市)
協賛 セコム上信越、コニカミノルタNC
協力 浅川園、今成漬物店、大阪屋、里仙、高橋酒造、新潟フジカラー
後援 共同通信社、時事通信社新潟支局、読売新聞新潟支局、毎日新聞新潟支局、産経新聞新潟支局、朝日新聞新潟総局、日本経済新聞社新潟支局、NHK新潟放送局、NST、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21

3. 応募資格

プロ、アマを問いません。

4. 応募条件 (一部変更)

- ① 応募写真はすべて個人の投稿制とします。
- ② 応募者は応募作品の制作者であり、かつ応募作品の著作権を完全に保有していること。
- ③ 『會津八一悠久の五十首』(旧版と、その掲載歌を一部差し換えた改訂版)、『秋艸道人會津八一美の彷徨』(いずれも新潟日報事業社刊)を参考になさり、これらに収められている歌(一部対象外の歌あり→次ページ「対象短歌の範囲拡大」の※注を参照)をテーマにしたものに限ります。(変更)
- ④ 応募者1人につき1首には1作品で、2首2作品まで応募できます。
- ⑤ 応募作品には、応募票(テーマにした會津八一の短歌、撮影の日時と地名、被写体の固有名詞=寺院名、仏像名など=を必ず記入する)を必ず作品の裏面に写真的天地が明確になるように貼りつけること。2首2点を同時に応募する場合は1点ごとに応募票を貼りつけること。
- ⑥ 被写体(寺院、仏像、人物など)に対しては応募者が了解をおとりください。
- ⑦ サイズは半切印用紙(356×432mm)にプリントしたものに限ります。このサイズは入賞・入選の場合、展示に耐えられるようになります。
- ⑧ 規格外サイズや額入り、台紙やパネルに貼ったものは審査の対象外とします。
- ⑨ 作品は入選歴のない未発表作品に限ります。
- ⑩ 応募作品は、規定1~17に同意しているものとして扱います。(追加)

5. 応募方法

応募者は郵送か宅配便で当記念館に送付、または持参すること。送付費用は応募者が負担してください。郵送の場合は必ず書留にしてください。

6. 応募費用

無料です。

7. 応募受付期間

2018年11月3日(土・祝)から2018年11月14日(水)まで。

締め切りの11月14日当日消印(または宅配受付・持参)有効。

8. 賞の構成

秋艸道人賞 1点

正賞:「天つ乙女」像(文化庁長官・宮田亮平氏作)と賞状。副賞:10万円

奨励賞(共催団体名付き) 5点 賞状 副賞各3万円

(今回から八栗寺が共催に加わり、「八栗寺わたみ賞」を設けます→次ページ「対象短歌の範囲拡大」最終項目に名称の由来を記しました)
※特別賞(奨励賞と同等)を設ける場合があります。

◆秋艸道人賞および奨励賞受賞者のうち、新潟市以外に在住の方々が表彰式・祝賀会に出席する際の交通費・宿泊費(1泊分)は、主催者が負担します。

入選 約20点

賞状と副賞は會津八一ゆかりの食品(清酒、漬け物、お茶、銘菓のいづれか1品)。

9. 審査員

淺井 暉平 写真家

和泉 久子 鶴見大学名誉教授

若松 保広 仏教美術写真家、奈良・飛鳥園専属

神林 恒道 新潟市會津八一記念館館長(大阪大学名誉教授)

10. 審査

審査選考は會津八一記念館が設ける公募写真選考委員会の責任と権限において合議で行われ、秋艸道人賞(最優秀賞)および奨励賞、入選を決めます。

11. 発表

2018年12月中旬(予定)、後援の報道機関を通じて全国に向けて発表および個人宛てに通知。

12. 表彰式兼講評会

1月末~2月上旬(予定)、会場は新潟市内の施設。

13. 返却(変更)

事務局態勢上、応募作品は返却できませんのでご了解ください。

14. 展示

入賞作品は翌年度内に当記念館はじめ全国の巡回展会場で展示します。

15. 著作権と出版権

受賞作品の著作権は制作者本人に帰属します。ただし公益財団法人會津八一記念館の広報活動のための出版物等に無償で活用させていただきます。当館刊行以外の出版物へ転載等する場合は制作者の同意を前提とします。

16. 個人情報

応募者から提供された個人情報は今後の「秋艸道人賞」写真コンテストの公募告知および會津八一記念館の各種事業の告知に利用することができます。

17. 作品の送付先と問い合わせ先

〒950-0088 新潟市中央区万代3丁目1の1 メディアシップ5階

(公財)會津八一記念館

「秋艸道人賞」事務局 電話 025(282)7612

ファクス 025(282)7614

e-mailアドレス info@aizuyaichi.or.jp

井川 康徳氏
胎内市長賞
〔新潟県胎内市〕
みどらしの
蓮に残る
緑な吹きそ
木枯らしの風



第11回 受賞品



【新潟市長賞】
佐久間 光夫氏(新潟県新発田市)
「薄れゆく 壁絵のはとけ もろともに
わが玉の緒の 絶えぬともよし」



【審査員特別賞】
高橋 ノリキ氏(新潟市北区)
「ビルバクシャ 眉ねよせたるまなざしを
まなこに見つつ 秋の野をゆく」



【BSN賞】
横井 良人氏(新潟県村上市)
「藤原の 大き后を 現し身に
相見るごとく 赤きちびる」



【新潟日報社賞】
渡辺 征二郎氏(奈良県奈良市)
「大和路の
瑞穂のみ空に
いづれの寺の
上にかもあらん」

◆対象短歌の範囲拡大◆

第12回の募集から対象とする歌の範囲を広げます。前回までの要項で示した『改訂版 會津八一悠久の五十首』(収載歌50首)に加え、『會津八一悠久の五十首』旧版(収載歌は、改訂版で差し替えた一部を除き改訂版と同一)、『秋艸道人會津八一 美の彷徨』(263首)を対象とします。

上記3冊に収載の歌や解説をお読みになり、撮影のイメージとぴったりのものを膨大な歌の中から見つけてください。声に出して歌を読むことでイメージが膨らむでしょう。(3冊はいずれも新潟日報事業社刊。新潟市會津八一記念館で販売しています。参考になさるようお勧めします。お申し込みくださいお送りいたします)

◆『會津八一悠久の五十首』(旧版、改訂版)には本文解説のほかに、歌人や芸能評論家10人による評論「會津八一の歌の特長※注」が収められています。ここで取り上げられている歌のうち上記3冊に解説のある8首を次に紹介します(かっこ内は評者、敬称略)。ただし、この8首が課題歌というわけではありません。上に挙げた3冊から広く選んでください。
(おことわり)會津八一の短歌はすべて平仮名書きで旧仮名遣いです。応募者が理解しやすいように漢字仮名交じりに改め、なおかつ旧仮名は現代仮名遣いに統一しました。

- あせたるを 人はよしう 頻婆果の ほとけの口は 燐ゆべきものを(斎藤茂吉)
- ししむらは 骨もあらわに とろろぎて 流るる膾を 吸いにけらしも(秋田雨雀)
- 春日野に おし照るつきの ほがらかに 秋の夕べと なりにけるかも(同)
- 観音の 背にそう蘆の ひと本の 浅き緑に 春立つらしも(山本健吉)
- 観音の 白き額に 瓔珞の 影動かして 風わたる見ゆ(馬場あき子)
- 溝川の底のおどみに 白妙の ものかたちの 見ゆるかなしさ(同)
- わが友よ よき文綴れ ふるさとの 水田の畔に 読む人のため(同)
- ほほ笑みて うつつごころに あり立たす 百濟ぼとけに しくものぞなき(大岡信)

※注「會津八一の歌の特長」にはこの8首以外に「たからかにこころかげよ…」「ふるてらのはしらにのこる…」「あきのひはつづてらせど…」「みやじまとひとのゆびさす…」「みぎはよりなめにのぼる…」「あけぬりののきのしらゆき…」「ひとりきてしまのやしろに…」の7首がありますが、『悠久の五十首』(旧版、改訂版)と『美の彷徨』の解説本文では取り上げていない歌ですので、撮影の対象歌とはしません。ご注意ください。

◆『秋艸道人會津八一 美の彷徨』には、俳句や隨筆などから引用した言葉も掲載されていますが、あくまでもコンテストの対象は短歌に限ります。

◆第12回から香川県高松市の八栗寺が共催となります。會津八一とはとてもゆかりの深い寺で、その梵鐘には會津八一がしたためた次の銘文と、八一最後となった歌(原文は平仮名)が鋳込まれています。

五剣山八栗寺の鐘は、戦時供出し、空しく十数年を経たり。今ここに、昭和卅年十一月、龍瑞僧正、新たに之を鋤むとし、余に歌を索む。乃ち一首を詠じて、之を聖觀世音菩薩の寶前に捧ぐ。その歌に曰く、

〈わたつみの 底ゆく魚の鰐にさえ ひびけこの鐘 仏法のみために〉
(『秋艸道人會津八一 美の彷徨』138ページ)。賞の名称はここから取りました。